

ANNUAL REPORT 2024

Facilities

子ども福祉部門

啓明児童クラブ
福井市朝谷町1-20(美山啓明幼稚園内)

上文殊児童クラブ
福井市生部町36-6(上文殊小学校内)

足羽東こども園
福井市東大味町10-1-1

足羽学園
福井市宿布町19-46-1

子ども発達支援センター フレンズあすわ
福井市大和田1丁目1607

フレンズみゆき
福井市御幸4丁目106-2

フレンズどれみ
吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128

障がい者福祉部門

足羽ワークセンター
福井市柁野町20-5

足羽サポートセンター
福井市米松2丁目6-28

パステル
福井市御幸4丁目1806

スマイル
福井市和田東1丁目2105

カラフル
福井市林町62-3

あすわ相談支援事業所リアン
福井市米松2丁目6-28

足羽更生園
福井市宿布町19-46-1

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3
福井市柁野町20-5(代表所在地)

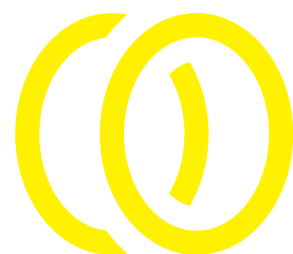
高齢者福祉部門

愛全園
福井市丸山町40-7

足羽利生苑
福井市柁野町20-7

グループホーム美山
福井市美山町6-1

福井大東包括支援センター
(ほやねっと大東)
福井市丸山町40-7 愛全園3F



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

社会福祉法人 足羽福祉会
www.asuwafukushikai.jp

TEL.0776-41-3108 FAX.0776-41-3199



ANNUAL REPORT 2024



足羽福祉会 事業報告



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。



Message

合言葉は「生きる」に、伴走し続ける。

少し前、少子高齢化が一層進む「2025年問題」という言葉が広がったとき、私たちにとって、その15年後にあたる「2040年問題」とは、想像がつかない大分先のことのような感覚だったかもしれません。しかし、実際に2025年となった今年、2040年問題で課題とされる「社会保障費の減少」「労働人口の減少」「インフラや建築物の老朽化」といった諸問題は、遠い未来のことではなく、いずれも目の前の課題として日に日に実感されるものになってきています。もはや先のことだからとほったらかしにするのではなく、手をこまねいて嘆くのではなく、当事者意識を持ってどうすべきなのか考えて、利用者様や地域社会、そして職員と福祉の新たな価値を創造していく意義が私たちに問われていると思います。

足羽福祉会では2024年、従来の福祉事業だけでなく、いくつかの新たなチャレンジを試みました。障がいのある方の素晴らしい表現（デザイン）の商品化、農福連携における作物のブランディング化をビジネスコンペで発表（結果は見事賞金獲得!）、SDGsをテーマとした子どもたちの表現作品の展示（あすわのこどもてん2024）、学生の社会課題解決のフィールドワークの場として協力、さまざまなニーズのある服役者への処遇向上を目的とした就労支援施設や介護施設での刑務所職員研修実施など、福祉の枠だけでなくさまざまなパートナーシップを広げ、共によりよい社会を作るための行動を行いました。各事業所の活動報告と合わせてご高覧ください。

私たちの住む地域社会から少しでも生きづらさがなくなっていくためには、多様性を認め合い、毎日の暮らしの中で、自分たちにできる「+α（プラスアルファ）」を広げておかねばなりません。そのためにも「失敗は失敗じゃない」「うまくいくまでチャレンジし続ければいい」心持ちが必要です。

私たちの挑戦は続きます。合言葉は「生きる」に、伴走し続ける。

令和7年5月
理事長 高村昌裕

Contents

01 目次/Message

- 03 法人理念／職員行動指針
- 05 ASUWA2030
第V期中期事業計画
- 07 令和6年度 あすわニュース
- 09 法人概要／決算報告
- 11 データで見る足羽福祉会
- 13 事業所報告

子ども福祉部門

- 15 啓明児童クラブ／
上文殊児童クラブ
- 16 足羽東こども園
- 17 足羽学園
- 18 子ども発達支援センター
フレンズあすわ／
フレンズみゆき／
フレンズどれみ

障がい者福祉部門

- 19 足羽ワークセンター
- 20 足羽サポートセンター
- 21 パステル
- 22 スマイル
- 23 カラフル
- 24 あすわ相談支援事業所リアン
- 25 足羽更生園
- 26 あすわ第1／あすわ第2／
あすわ第3

高齢者福祉部門

- 27 愛全園
- 28 足羽利生苑
- 29 グループホーム美山
- 30 福井大東包括支援センター
（ほやねっと大東）



Philosophy



法人理念

共に生き、共に集う、
光を求めて

職員行動指針

私たちは、人として、福祉専門家として、
「共に生きる人」を目指し、
利用者様と共に、地域と共に、
職員と共に歩みます。

パーパス | 足羽福祉会の存在意義

だれ一人取り残すことなく、
途切れない支援を行い、
地域社会から生きづらさをなくす。

ミッション | 日々果たすべき使命

仲間と共に、福祉の専門家として
常により良い支援を考え、行い、改善する。
地域と福祉のより良い未来を志向する。

ビジョン | 実現したい未来

共に生きている。
それがふつうの世の中に。

ASUWA2030

理念の実現を目指す長期ビジョン

- 01 住み慣れた地域で「自分らしく」生きることの実現
- 02 共生社会実現に向けて地域、社会の課題解決を図る行動
- 03 成長し、支え合い、笑顔あふれる職場にする働き方改革

第Ⅴ期 中期事業計画 2023-2025

事業計画テーマ

ワクワク × つながる = 新しいウェルビーイングのかたち

5つの視点	3年後の姿 (目指す状態像)	2023(令和5)年度の実績	2024(令和6)年度の実績	2025(令和7)年度の計画	2030年に向けた SDGs目標
1 利用者様と共に	一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとでさまざまなチャレンジがなされ、たくさんの成功事例ができています。	① 尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める。▶ 取り組み継続 ② 一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント(着手、見直し)▶ 取り組み継続 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。▶ サービス実践報告会を実施	① 尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める。▶ Eラーニングや第三者等を招いた研修など実施 ② 一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント(着手、見直し)▶ 各部門で適切なアセスメントづくりを実施 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。▶ 「サービス実践報告会」「あすわのこどもてん」を開催	① 学びをもとに、実践を振り返る仕組みの構築(早めに気づき、検討し、改善する) ② 種別や部門、年齢等にかかわらず、一人ひとりが居心地の良い居場所作り。 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。	1 健康をなくそう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを
2 地域と共に	地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されている。	① 関係者(地域住民、学生、研究機関等)を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有。▶ 取り組み継続 ② 地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。▶ 取り組み継続 ③ 災害時における法人の役割(福祉避難所設置、DWAT派遣等)を発揮できる体制整備。▶ 取り組み継続	① 関係者(地域住民、学生、研究機関等)を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有。▶ 地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。 ・ 関係者(地域住民、学生、研究機関等)を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有。 ・ 地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み。 ② 災害時における法人の役割(福祉避難所設置、DWAT派遣等)を発揮できる体制整備。▶ 福井DWAT、福祉避難所登録、個別避難計画対応訓練実施	① 地域住民の目線で課題解決に取り組む、共同による成功事例を創出し、発信。 ② 地域住民と共に災害時の福祉避難所対応訓練の実施。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくもの責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう
3 職員と共に	働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった!と実感できている。	① 確保:ブランディング推進のもと、法人に共感する人材の確保。▶ 法人CM放送開始 ② 育成:法人研修プログラム等を定着させ、学びやサービスクオリティ、改善意欲の向上。▶ 取り組み継続 ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など)。▶ ICTにおける業務改善に向けたインフラ整備完了	① 確保:ブランディング推進、DE&I推進により、多様な人材が確保できる採用計画の構築と運用。▶ 法人のPMV効果による採用、中途採用求人サイトの活用 ② 育成:法人研修プログラム等を定着させ、学びやサービスクオリティ、改善意欲の向上。▶ Web受講による研修受講率UP ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など)。▶ 業務効率向上にて超過勤務減、有休取得日数増加	① 確保:ブランディング推進、DE&I推進により、多様な人材が確保できる採用計画の構築と運用。 ② 育成:一人ひとりの能力向上による、高い労働生産性の発揮。 ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など)。	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を促進しよう 8 働きがいも経済成長も
4 地球と共に	CO ₂ 排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。	① 法人内電球の全LED化。▶ ほぼ完了 ② 既存車両のリース契約への切替検討(助成車輛除く)し、新たな車両のEV、PHVまたはHV車への切替を推進。▶ 農業をととした循環型事業モデルの継続 ③ 有機廃棄物の堆肥化に向けた取り組み。▶ 農業をととした循環型事業モデルの継続	① 法人内電球の全LED化を継続し、新たな施設整備は太陽光発電を導入。新たな車両はEVまたはHV車を導入。▶ ほぼすべての拠点でLED化、EV・HV公用車を導入 ② 農業をととした循環型事業モデルの取り組みを継続する。▶ 農福事業が本格化し、有機栽培、生産量増と販路拡大 ③ 法人におけるSDGsの取り組みを発信する。▶ SDGsをテーマとした「あすわのこどもてん」開催	① 法人内電球の全LED化を継続し、新たな施設整備は太陽光発電を導入。新たな車両はEVまたはHV車を導入。 ② 農業をととした循環型事業モデルの取り組み等、各拠点で具体的な目標設定をの取り組み。 ③ 法人におけるSDGsの取り組みを発信する。	12 つくもの責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を
5 経営基盤の安定化	さまざまな経営改善の取り組みにより、持続可能な収支差額が計上できている。	① 法人ブランディングの推進(利用者様から選ばれる、人材採用・定着、地域広報)。▶ 新たなシンボルマーク・ロゴによる広報ツールの整備完了 ② 適正人員配置とサービス内容の充実により、全事業で稼働目標を達成。▶ 取り組み継続 ③ KPI設計による成果の見える化、PDCAで改善させる仕組化など管理職のマネジメント力強化の取り組み。▶ KPI目標の適正化を図りつつ取り組み継続	① 法人ブランディングの推進(利用者様から選ばれる、人材採用・定着、地域広報)。▶ SNSにて一定の採用確保、学校説明会、セミナー開催 ② 適正人員配置とサービス内容の充実により、全事業で稼働目標を達成。▶ 全体としてサービス活動増減差額は多少改善 ③ KPI設計による成果の見える化、PDCAで改善させる仕組化など管理職のマネジメント力強化の取り組み。▶ 業績評価基準を明確化、経営指標の「見える化」を共有	① 収入確保への取り組み強化(利用者様確保、稼働目標の明確化と進捗管理) ② 支出の適正化(人材の適正配置、経費の適正等)による収支差額の目標達成。 ③ マネジメント力強化による組織生産性向上の取り組み。	

2024 ASUWA NEWS

—
令和6年度 あすわニュース

令和6年度にあった出来事をダイジェストでご報告します。足羽ワークセンターの新たなブランド「COSEI」の立ち上げ、足羽サポートセンターのビジネスコンテスト受賞につながった農福連携、福井大学様との学福連携など新たな展開もありました。足羽川ふれあいマラソンも本来の形で復活して2回目となり、新型コロナで自粛気味だった活動が増え始めた1年でした。そして、ASUWA2030の5つの視点のひとつ「地球と共に」を念頭にSDGsの行動も進めています。

1 あすわのこどもてん2024 —こどもたちのSDGs—

2024年12月11日(水)～15日(日)にかけ福井市美術館にて「あすわのこどもてん2024」が開催されました。当法人の子ども福祉部門の事業所が一堂に会し、子どもたちの作品を展示することでイキイキした姿を感じていただき、関係機関の皆さんにも知っていただく良い機会となっています。今回も5日間で約400名の方にご来場いただきました。今回も「啓明児童クラブ」「上文殊児童クラブ」「足羽東こども園」「足羽学園」「子ども発達支援センター フレンズあすわ」「フレンズみゆき」「フレンズどれみ」の各事業所の子どもたちの力作がたくさん集まりました。今後も、子ども福祉部門だけではなく、障がい者福祉部門、高齢者福祉部門でもこうした取り組みを進めてまいります。



3 第11回足羽川ふれあいマラソンを開催！

2024年11月17日(日)、足羽福祉会主催の「第11回足羽川ふれあいマラソン」が開催されました。この大会は、当法人の公益事業であるボランティア育成事業として毎年行っているイベントです。イベントを通じたボランティア体験の機会によって福祉への理解を広げることが目的としています。大会運営にあたっては、協賛企業、地域の方々、関係機関のご協力をいただきながら、毎年ランナーとボランティアで作り上げるふれあいをテーマにした大会づくりを目指しています。今回もハーフから未就学児の親子マラソンまで幅広い種目に全国各地からランナーが集まり、晩秋の足羽川を思い思いの目標を目指して走りました。フィニッシュ後に待っている恒例のぜんざいサービスでは、社会福祉法人つくみ福祉会様のご協力もいただきました。今後も、皆さんのご意見をいただきながら改善を重ねてよりよい大会を目指してまいります。



2 障がいのある方の可能性をかたちに —COSEIプロジェクト始動—

足羽福祉会 就労継続支援B型事業所「足羽ワークセンター」が手がける新たな挑戦「COSEI(コセイ)」は、利用者一人ひとりの個性とアートを商品というかたちに変えるプロジェクトです。当法人内で開かれた作品展「えん展」を契機に、本格的な企画開発がスタート。利用者様が制作から販売までの各工程に関わるよう細かく作業を分け、特性に応じた役割を用意。働く喜びと収入向上の両立を目指しています。商品は、自家焙煎珈琲やピーンズチョコ、Tシャツやパーカー、ドリンクボトルなど多彩。帆布バッグ作家とのコラボなど、外部との連携にも積極的です。「私の作品も商品にしてほしい」という声を歓迎し、これからも一人ひとりの「個性」を社会に届けていきます。



4 学びの現場に“福祉”を届ける —市内小中学校にて出前授業を開催！—

足羽福祉会では、福祉教育を通じて地域社会に「やさしさ」と「気づき」を広げる取り組みを行っています。障がい児入所施設「足羽学園」では、市内小中学校に職員が出向き「障がいってなんだろう？」をテーマに出前授業を実施。資料を使った解説やグループワークを通じて、福祉について主体的に考える機会を提供しました。また、当法人では高齢者福祉部門においても出前授業を行っており「高齢になると身体や心にどのような変化が起こるのか」を伝えたり、演劇を通じて高齢者との関わり方をわかりやすく紹介しています。足羽福祉会は、世代や立場を問わず、誰もが福祉を自分ごととして捉えられるよう、地域の教育現場に寄り添いながら「福祉の心」を届けていきます。



5 農業と福祉をつなぐ挑戦 —足羽サポートセンターが 農福ビジコン支援先に出—

2025年2月27日(木)、福井県健康福祉部障がい福祉課が主催する「農福連携ビジネスプランコンテスト」に、足羽福祉会の障がい者福祉サービス事業所「足羽サポートセンター」が登壇し、プレゼンテーションを行いました。選出された事業所には、今後、専門家による伴走支援が行われ、プランの具体化や事業化に向けた後押しが期待されます。「農福連携」とは、障がいのある方が農業の現場で活躍することを通じて、働く喜びや生きがいを得るとともに、社会参加を実現する取り組みです。また、農業分野では高齢化や担い手不足が課題となっており、新たな労働力の創出という面でも注目されています。足羽サポートセンターは、地域の農業と連携しながら、利用者の能力を活かす新たな就労の場づくりに挑戦していきます。



7 「地球と共に」取り組み報告 (足羽福祉会SDGs)



燃料 | 法人全体では減少傾向



灯油	前年度比 256.51(ℓ)減 ↓	施設内訳 (75% ↑、25% ↓)
ガソリン	前年度比 196.6(ℓ)減 ↓	施設内訳 (59% ↑、41% ↓)
軽油	前年度比 19,606.51(ℓ)減 ↓	施設内訳 (75% ↑、25% ↓)
ガス(LPG)	前年度比 153.9(m)減 ↓	施設内訳 (55% ↑、45% ↓)

〈減少要因〉 ・EV、HV車への切り替え ・送迎ルートの見直し
〈増加要因〉 ・活動量の増加(コロナ禍終息によるものも含む) ・厳冬対応
〈対策!〉 ・EV、HV車への切り替え

6 学福連携で「共につながる」 —福井大学PBLに参画—

学福連携の取り組みの一つとして、福井大学様との連携に取り組みしました。現代社会の課題解決のためには、自ら考え、行動し、解決する力が求められます。福井大学課題探究プロジェクト(PBL=Project Based Learning)では、「地域」「国際」の両視点から、地域の企業や自治体の現場で働く人々と共に課題解決を目指しています。同大学の学生さんが足羽福祉会の「グループホーム美山」「足羽学園」「足羽更生園」の各施設を訪問し、実際の現場を知ることによって新たな学びを得ました。こうした取り組みでは、大学側が理論的な分析やデータを提供し、福祉法人側が実践的な知見を持ち込むことで、より具体的かつ持続可能な解決策が生まれる可能性があるとのこと。足羽福祉会として、若い世代や法人以外とのつながりが広がるような連携をこれからも探っていきます。

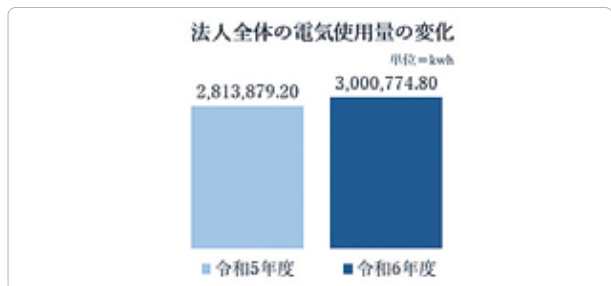


足羽福祉会は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、2022年4月1日、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献するSDGs宣言をしました。今般、足羽福祉会のCO₂(温室効果ガス)排出量の推移状況がまとまりました。

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛がありCO₂排出量減少傾向がありましたが、2024年度は活動の再開もあり、排出量は増えました。結果スコープ1(燃料)は減少、スコープ2(電力)は増加となりました。

t-CO₂は二酸化炭素1トンの排出量を意味する単位
スコープ1 自社での燃料使用や工業プロセスによる直接排出
スコープ2 自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出
※2022年度はデータ不足で未計上

電力 | 法人全体では増加傾向



低圧電力・従量電灯 前年度比186,895.6(kwh)増 ↑ 施設内訳 (30% ↓、70% ↑)

〈減少要因〉 ・節電 ・LED化
〈増加要因〉 ・猛暑・厳冬対応 ・電化製品の老朽化
〈対策!〉 ・省エネモデル(クリーンエネルギー供給の電力会社への転向) ・LED化

「あすわ第2 こもれび」太陽光発電を令和6年3月より導入
令和6年3月～令和7年3月までの発電量は8649.9kwh。
そのうち自家消費したクリーンエネルギーは6144.8kwh。
CO₂削減量にすると3066.2552kgの削減を達成。



Financial Report

法人概要／決算報告

Financial Report

足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで安心して利用できる総合福祉事業として、さまざまな施設やサービスを通して、地域に開かれた、地域に信頼される福祉を目指しています。

法人概要（令和7年4月1日現在）

名 称	社会福祉法人 足羽福祉会
所 在 地	〒910-2178 福井県福井市柁野町20-7
事 業 内 容	第一種・ 第二種社会福祉事業（保育・障害・高齢）・ 公益事業
理 事	理事長…………… 高村 昌裕 常務理事…………… 嶋田 富士男 理事…………… 中尾 亨 理事…………… 中村 まゆみ 理事…………… 山形 裕之 理事…………… 永松 真 理事…………… 坂口 昌宏 理事…………… 吉村 宜利子
職 員 数	544名（正規職員・パート職員）
総 収 入	3,234,505千円（令和6年度実績）
主な資格の 保有職員数	看護師・准看護師…………… 36名 社会福祉士…………… 47名 介護福祉士…………… 141名 保育士…………… 86名 調理師・栄養士…………… 42名
職員満足度 向上の取り組み	社員ファースト企業認定（福井県） 子育てファミリー応援企業認定（福井市） ふくい女性活躍推進企業＋登録（福井県） 職員健康づくり宣言（協会けんぽ） 経営デザイン認証 ランクアップ認証 （経営品質協議会）

決算報告

貸借対照表

令和7年3月31日現在
（単位：千円）

流動資産	958,747
固定資産	3,008,566
資産合計	3,967,314
流動負債	484,727
固定負債	541,098
負債の部合計	1,025,825
純資産の部合計	2,941,489
負債・純資産合計	3,967,314

事業活動計算書

自令和6年4月1日
至令和7年3月31日
（単位：千円）

サービス活動収益計①	3,179,952
サービス活動費用計②	3,274,654
サービス活動増減差額③＝①－②	－94,701
サービス活動外収益計④	20,703
サービス活動外費用計⑤	5,697
サービス活動外増減差額⑥＝④－⑤	15,005
経常増減差額⑦＝③＋⑥	－79,696
特別収益計⑧	33,850
特別費用計⑨	19,345
特別増減差額⑩＝⑧－⑨	14,505
当期活動増減差額⑪＝⑦＋⑩	－65,191
前期繰越活動増減差額⑫	2,099,594
当期末繰越活動増減差額⑬＝⑪＋⑫	2,034,403
その他の積立金取崩額⑭	2,100
その他の積立金積立額⑮	32,021
次期繰越活動増減差額⑯＝⑬＋⑭－⑮	2,004,482

データで見る足羽福祉会

法人ブランディングに関わるもの

職員数

540人



(2025年3月時点)

採用者数(新卒・中途)

新卒

7人

中途

29人

合計

= 36人

(2024年度実績)

実習・インターンシップ・ボランティア 受入人数

実習

149人

見学

393人

ボランティア

563人



「あすわの木」「CARAMON」利用者数、
「あすわの実」お弁当販売数

あすわの木

22,757名

CARAMON

19,396名

弁当販売数
(COSEI含む)

27,683個

(2024年度実績)

リクルート関連
エントリー数

81人

(2024年度実績)

HPアクセス数

コーポレートサイト

51,034件 (月平均 4,253件)

リクルートサイト (2024.3新規開設)

24,370件 (月平均 2,031件)

(2024年度実績)

その他の取り組みに関わるもの

展開事業における
SDGs 関連項目



コピー用紙の消費枚数

約 7.5% の削減

令和5年度

1,488,034 枚 ▶ 1,375,743 枚

育休取得率

女性

100%

男性

40%

(2024年度実績)

月平均残業時間

6時間

(2024年度実績)

有給休暇取得率

61%

(2024年度実績)

離職率

10%

(2024年度実績)

障がい者雇用率

3.7%

雇用数
20人

(2024年度実績)

女性管理職割合

40%

(2024年度実績)

外国人雇用者数・
留学生受け入れ数

16人

(2025年3月時点)

Facility Report



事業所報告

Facility Report

子ども福祉部門

一つひとつの未来、つないでいきます。

あっという間に過ぎる「子どもたちの今」。そんな大事な時間を共に過ごす私たちは、遊びや学びを通して、やさしく、ちから強く、児童一人ひとりの「らしさ」を引き出すために、ご家族や関係機関と連携しながら支援を続けています。

啓明児童クラブ/上文殊児童クラブ

- 放課後児童クラブ

足羽東こども園

- 幼保連携型認定こども園

足羽学園

- 福祉型障がい児入所施設
- 短期入所

子ども発達支援センター フレンズあすわ

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援
- 短期入所
- 地域障害児支援体制強化事業

フレンズみゆき/フレンズどれみ

- 放課後等デイサービス

障がい者福祉部門

思いに、悩みに、喜びに、夢に、向き合っていく。

利用者様それぞれが持つ「ちから」に気づき、引き出し、輝かせること。地域に暮らし、社会の一員として人生を自分らしく楽しむための支援をすること。私たちは、地域社会との交流を通して利用者様一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいます。

足羽ワークセンター

- 就労継続支援B型

足羽サポートセンター

- 就労継続支援B型

パステル

- 自立訓練(生活訓練)
- 就労移行支援
- 就労定着支援

スマイル

- 生活介護

カラフル

- 生活介護
- 共生型生活介護

あすわ相談支援事業所リアン

- 計画相談支援
- 障がい児相談支援
- 地域移行/地域定着支援

足羽更生園

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所
- 日中一時支援

あすわ第1/あすわ第2/あすわ第3

- 共同生活援助
- 短期入所

高齢者福祉部門

これからの、みずみずしい暮らしのために。

長い年月を過ごし、ご家族や社会への責任を果たしてきた高齢者の方々。そんな皆さまといっしょに、若者のように笑い、泣き、語り、遊び、感動したい。親しみのある地域で、これからも新しい思い出をつくっていただけるようお手伝いしていきます。

愛全園

- 特別養護老人ホーム
- 認知症対応型共同生活介護
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

足羽利生苑

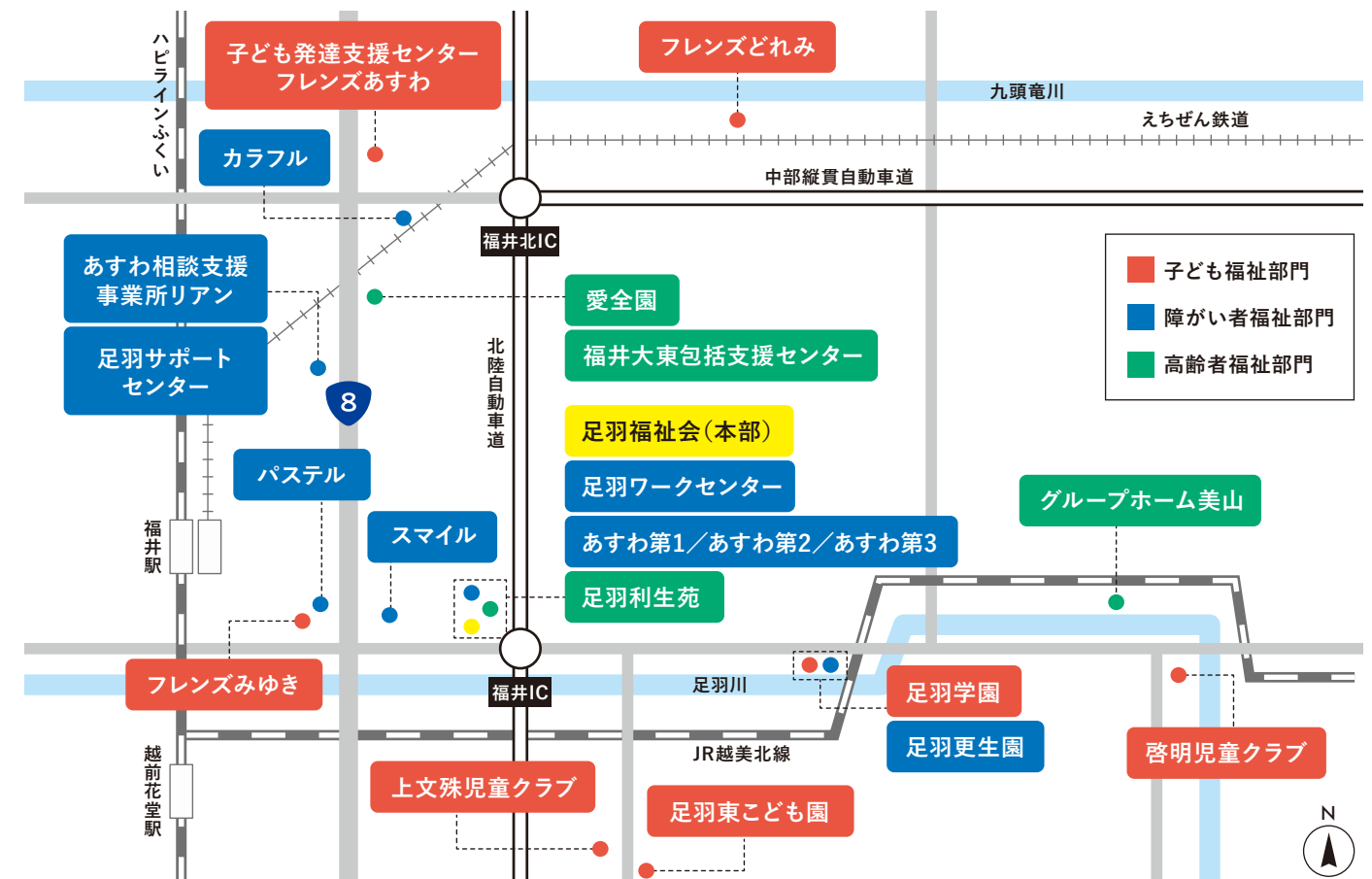
- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

グループホーム美山

- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 共生型生活介護
- 短期入所

福井大東包括支援センター (ほやねっと大東)

- 相談支援



啓明児童クラブ／ 上文殊児童クラブ

啓明児童クラブ・上文殊児童クラブは、昼間保護者のいないご家庭の小学生が対象。放課後及び長期学校休業中に児童に安心して過ごしていただきます。遊びなどを通して心身ともに成長できる場を提供することで、保護者の方が安心して勤務できるよう支援いたします。

啓明児童クラブ

Report 1 美山交流カフェで地域の 人たちとのつながりを知る



「グループホーム美山」が開催する「認知症カフェ」に参加。その日利用されているお年寄りの誕生日と一緒に当クラブの誕生日の児童も祝っていただきました。ケーキを食べたり、歌を歌ったり、「紙コップを使っての風鈴づくり」を地域の高齢者の方々と交流しながら行いました。最初は知らない人ばかりかなと緊張気味でしたが実際は「近所のおばあちゃんやったあ」「私のおじいちゃん、お父さんのこと知っている人がいてビックリしたあ」等と驚きながらも、地域の高齢者の人たちとのつながりを知る貴重な交流を体験できました。



Report 2 仲間とのつながりで 友好を深める



小学校の秋休み期間を利用して、同法人の運営する「上文殊児童クラブ」と一緒に「越前陶芸館」と「越前がにミュージアム」へ遠足に行ってきました。陶芸館ではお皿の絵付け体験と学芸員から越前陶芸品の説明を受けましたが館内は割れ物が多くあり、職員はヒヤヒヤしましたが、約束を守ってしっかり聞くことができました。秋空の下での昼食後は、かにミュージアムへ移動。主任研究員の大間さんによる「越前がにの生体」等の説明に深くうなずきながら館内を一周した後は、体験ブースで簡単なゲームをしたり、魚と触れ合ったりして、友好を深めました。



Report 3 環境問題を自分ごととして 明日につなぐ



12月11日～15日に開催された「あすわのこどもてん2024」に、当クラブもSDGsをテーマとした作品「マイエコバッグ／ペットボトルかかし／卵の殻からできたプランター」を出展しました。エコバッグは公民館主催の環境についての出前講座に参加し「マイエコバッグを作って買い物へ行こう」のスローガンのもとで作成しました。かかしは廃ペットボトルを使ったものを製作、プランターは好きな絵を描くことができる自分だけのプランターです。今回の展示はプラスチック削減と廃棄物処理の環境問題を自分ごととして解決し明日へとつなぐ意識を育みました。



上文殊児童クラブ

Report 1 一人ひとりが 自己を発揮できる活動



児童の興味に沿って遊びの環境を整えました。伝承遊び(けん玉、コマ、お手玉、折り紙)制作、絵を描く等自分でしたい遊びに集中し、上達する姿が見られています。また、開放していただいている小学校の体育館では、鬼ごっこ・ドッジビー・バドミントンなど、思いっきり体を動かしています。低学年は高学年の刺激を受け、特に縄跳びの技が上達しました。年間行事も楽しみました。



Report 2 SDGsへの取り組み



「あすわのこどもてん」に、SDGsカルタを出展しました。カルタの台紙はティッシュペーパーの空き箱を利用し、取り札の絵や読み札の言葉もすべて自分たちで考えました。カルタづくりを通して子どもたちのSDGsへの関心が深まり、出品後も繰り返し遊んでいます。また、今年度も児童と職員で市の出前講座を受講し、ゴミの分別について学び合いました。節電節水についても継続した取り組みを行っています。



Report 3 地域との交流活動



8月には上文殊公民館「仲良し学級」の児童と一緒に水遊びを楽しみました。水鉄砲や水風船等で笑顔いっぱいの交流となりました。小学校のプールも入ることができ思い切り夏の遊びを楽しみました。また地域の主任児童委員さんが来所し絵本の読み聞かせなどで児童とふれあいました。10月には、啓明児童クラブと福井県陶芸館、越前がにミュージアムに出かけました。絵付けをしたり、カニの観察や自分で描いた魚を壁に映し出す体験などをして交流を深めました。



DATA

〈啓明児童クラブ〉
事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者 美山啓明小学校または羽生小学校に通う児童(1年生～6年生)
所在地 福井市朝谷町1-20(美山啓明幼稚園内)
管理者 蟻塚 光男

〈上文殊児童クラブ〉
事業内容 児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者 上文殊小学校に通う児童(1年生～6年生／人数35名)
所在地 福井市生部町36-6(上文殊小学校内)
管理者 蟻塚 光男

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

●啓明児童クラブ

引き続き、公民館や地域の施設等との交流を図り、地元の方々とのかわりを通して、利用児童たちの地元に対する愛着心を育むことを継続していきます。また、SDGsを意識した取り組み、廃材等を発想豊かな遊びにつなげ、モノに対する感謝の心を育む取り組みを行い、ホームページ等で活動を発信していきます。

●上文殊児童クラブ

人権・養護面に十分配慮し個々の個性を大切にしながら、保護者が子育てと仕事を両立できるよう支援を行います。小学校や地域と引き続き円滑な情報共有を行いながら、安全で安心な放課後の居場所を提供していきます。また、途中入所の受け入れなど柔軟な対応を行い、保護者のニーズに応えていきます。

足羽東こども園

文殊山のふもと、四季折々の自然が感じられる当園。2022年春に竣工した新園舎では「自然活動、交流活動、たてわり活動、楽しい給食、体育活動、健康・安全活動」を掲げ、一人ひとりから自らを発揮し豊かな感性を持った子どもたちが育っています。

Report

1 たてわり活動の充実

日常生活で、年齢が異なる子どもたちが同じ場所で遊んだり、一緒に活動したりする「たてわり活動」を多く行いました。年上や年下の子と共に過ごすことで、子どもたちはお互いの個性や違いを自然に受け入れ、相手を思いやる様子など、社会性が身に付く姿が見られました。また、たてわり活動での取り組みを、夏まつりや発表会、誕生会など行事の中で、子どもたちの成長した姿と共に保護者にも知らせることができました。



Report

2 SDGsへの取り組み

業務改善やICTの積極的な活用による節電、ペーパーレス、ゴミの削減などに対する取り組みは、職員のSDGsへの意識向上に繋がりました。また、地域や他拠点との収穫体験を通し、子どもたちは感謝の気持ちや食材の大切さを知ることができました。子ども福祉部門の施設が合同で企画した「あすわのこどもてん2024」では、廃材や自然物を使った工作や、障がいのある子どもたちと一緒に取り組んだ作品を出品し、こども園のSDGsに関する活動を、地域に多く発信することができました。



Report

3 職員の学びによる 保育の質向上へ

公開保育や他園との勉強会への参加、他拠点との交流、イベント企画等を通して、職員同士の学び合いを深めることができました。さまざまな取り組みや考え方にふれ、自身の教育保育を見直すきっかけとなりました。また、昨年度導入した、保育ICTシステムを利用した保育ドキュメンテーションの作成により、保護者や職員同士に自身の教育保育を積極的に発信したことで、職員の質向上に繋がりました。



DATA

事業内容 幼保連携型認定こども園(定員 1号:12名／2・3号:130名)
対象利用者 0～5歳児の乳幼児

所在地 福井市東味町10-1-1
管理者 三上 登美子

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

職員の学び合いを継続し、子どもの声や思いに心を傾け、一人ひとりに合った適切な教育保育を提供します。また、災害など突発的な事案について、地域の課題抽出などの取り組みを行いながら、地域に安全安心な保育提供を行うための対応策を検討します。



足羽学園

現在、障がいのあるお子様の成長を支える仕組みは増えた一方、社会的擁護や自閉スペクトラム症など専門的支援ニーズは高まっています。私たちは、利用者様が地域で安心して暮らせるよう、ご家族・関係機関と連携しながら一緒に考えていきます。

Report 1 利用者様ワクワク・職員ドキドキ、ワクワク泊旅行

子どもたちによる自治会を通じて子どもたちから出てきた「旅行に行きたい」「USJに行きたい」を叶えようと足羽学園としては初めての泊旅行に大阪方面に出掛けました。職員にとっては子どもたちの反応が読めずドキドキでしたが、夜はお部屋でトランプ大会をしたり、たこ焼きづくり体験をしたりと子どもたちにとっても職員にとっても初めて尽くしの旅行でしたが、みんな笑顔で楽しい思い出がたくさんできました。子どもたちは「次は〇〇行きたい」と次なるチャレンジにワクワクです。



Report 2 もっともっと知ってほしい！福祉理解促進への取り組み

足羽学園で継続して取り組んでいる「出前授業」をさらに広めようと酒生小学校に加え、令和6年度は新たに、足羽更生園の日中活動場所のある美山地区にも拡大し、美山中学校1年生の方にも出前授業をさせていただきました。福祉の骨幹ともなる「他の人の幸福」について考えるグループワークや、実際に「障がいにについて感じてみよう」と体験を通じて考えていただく場を持ちました。どの生徒さんたちも真剣に授業を聞いていただき、福祉や障がいへの理解、関心へとつながりました。



Report 3 働きやすい職場を目指した取り組み

家庭と同じ機能を担っており、学校に通っているため、朝夕に支援する人材を厚く確保する必要があり、職員にとっては中抜け（朝出勤して数時間働いて退勤し午後再度出勤する勤務形態）勤務や、早出や遅出勤が多いなど体調管理には気を張る必要があります。少しでも職員が働きやすい職場を目指し、働き方改革プロジェクトとして委員会を設け、適正な人員配置、勤務体制となるよう業務改善、業務整理に取り組みました。まだまだ道半ばであるので継続した取り組みをしていきます。



DATA

事業内容 福祉型障がい児入所施設（定員20名）
短期入所支援（定員4名）

対象利用者 18歳までの知的に障がいのある子ども

所在地 福井市宿布町19-46-1

管理者 嶋田 富士男

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

- ・令和6年度同様、子どもたちの思いを具現化し、さまざまな経験を通して自己肯定感を育めるよう取り組みます。
- ・職員の勤務形態のあり方や支援内容について、県外施設等の視察や情報交換を通して重点課題である超過勤務削減に向けて働き方改革プロジェクトを中心に改善に取り組みます。

子ども発達支援センター フレンズあすわ／フレンズみゆき／フレンズどれみ

幼児期・学齢期のさまざまなライフイベントに保護者の皆様と一緒に取り組んでいます。日々の悩みや課題などにも、ご本人の夢に向かうステップを支援の専門職としてサポートし、関係機関と連携しながら家庭と学校以外の第三の居場所づくりに努めています。

Report 1 子育てに関する勉強会と交流の場～しゃべりば～

この取り組みは、発達や子育てに関する不安をお持ちのご家族に、交流と学びの場を提供することを目的として、福井市の児童発達支援センター「のびろ」と共同で開催しました。「しゃべりば」では、「幼児の言葉と育ち」「自立・就労支援」「進学と就労」などのテーマで、育ちや支援に関する講座が行われ、参加者からは「共感できて心強かった」「新しい情報を得られた」などの声をいただきました。今後も、子育て中のご家族への支援や地域の支援体制強化に向けて活動を続けていきます。



Report 2 廃材アートで伝えるSDGs～あすわのこどもてん～

この展示会は子どもたちの思いやアイデアを社会に表現することを目的とし、福井市美術館にて2年に1度開催し、今年で3回目となります。今回は牛乳パックやお菓子の箱などの廃材を使って、SDGsにちなんだ個性あふれる作品を展示しました。子どもたちは自分の作品をいろいろな人に見てもらえることで伝える楽しさや環境への意識を学ぶことができました。389名の方々にご来場いただき、障がいのある子どもたちの才能を地域に伝える素敵な機会になりました。



Report 3 地域とつながる外出活動と紙芝居ボランティアの取り組み

フレンズどれみでは外出活動をより充実させています。エンゼルランドやアルプラザアミ、こども歴史文化館、恐竜博物館など、さまざまな場所へのお出かけを通じて、子どもたちの社会性や生活スキルが自然と育まれています。また、地域とのつながりを大切にするため、B-メイトの皆様による紙芝居の読み聞かせボランティアを受け入れています。永平寺町の民話や伝説を題材にした紙芝居は、子どもたちが地域の文化に親しむ良い機会となり、コミュニケーション力の向上にも役立っています。これからも、障がいのある子どもたちがさまざまな経験を通じて成長できるよう、地域との交流を深めていきたいと思います。



DATA

〈フレンズあすわ〉

事業内容 ①児童発達支援（定員12名） ②放課後等デイサービス（定員10名） ③保育所等訪問支援 ④短期入所（定員5名） ⑤地域障害児支援体制強化事業

対象利用者 ①就学前の児童（7歳未満） ②学齢期の児童（6歳以上18歳未満） ③18歳未満の児童 ④当センターの利用者様 ⑤福井市内在住の方

所在地 福井市大和田1丁目1607

管理者 渡辺 浩基

〈フレンズみゆき〉

放課後等デイサービス（定員10名）

学齢期の児童（6歳以上18歳未満）

福井市御幸4丁目106-2

渡辺 浩基

〈フレンズどれみ〉

放課後等デイサービス（定員10名）

学齢期の児童（6歳以上18歳未満）

吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128

渡辺 浩基

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

来期には、個別支援計画作成の際のアセスメント項目を増やし、より支援の充実につなげていきます。支援の経過や成果を利用者様・保護者様と共有していき、その結果を「見える化」し、情報を加えてより丁寧なモニタリング面談を実現。将来に向けた必要な支援や手立てを一緒に考えてさせていただきます。

足羽ワークセンター

利用者様自身が生活の中心者となって未来を選択し「働きたい」「自立したい」という夢が実現できるよう支援しています。個別支援計画を基に日常生活を整え、利用者様のニーズや能力に応じた社会経験の場を提供し、目標達成を実感いただけるよう支援しています。

Report

1 県外宿泊研修旅行

コロナ禍以降では初めての宿泊研修旅行を実施いたしました。コースは名古屋方面の一泊旅行と富山方面の日帰り旅行。大きな水族館を見学したり、開通したばかりの北陸新幹線に乘車したり、それぞれ日常とは違う特別な体験をたくさんすることができる内容でした。利用者様からも「とても楽しかった」「またお仕事頑張ってお泊まりの研修旅行に行きたい」などの声があり、働く意欲にも繋がる体験になりました。



Report

2 福井県ふるさと文学館とのコラボ企画

県立図書館内のあすわの木では、夏休み期間の夏季企画としてふるさと文学館とコラボし、福井県出身の絵本作家である刀根里衣氏の書籍やグッズを多数販売しました。企画期間中には刀根里衣氏も来館され、サイン会が開催されましたが、企画関係商品を求め大勢のファンの方があすわの木にも来店され大盛況でした。あすわの木スタッフの利用者様も、お店が忙しい中でも元気に一生懸命作業をしてくださいました。お客様から「頑張ってるね」と声をかけていただいたことが、利用者様にとってとても励みになっていました。



Report

3 COSEIブランド立ち上げ

障がい者アートを活用した商品ブランドとして、「COSEI(コセイ)」を立ち上げ、2024年8月より商品化し販売しました。COSEIは、アートを使ったデザインで、飲食・雑貨を問わず、さまざまな商品を展開しており、サブタイトルである「ISAI WO HANATSU」のように、個性的なデザインにより、唯一無二の商品展開をしてきました。また、利用者様はCOSEIブランドの商品づくりに携わり、販売会やカフェ等での販売を通して作る喜び、売る喜びを体感していただきました。今後も新しいデザインや商品展開をしていき、利用者様の工賃向上に繋げていきたいと思ひます。



DATA

事業内容 就労継続支援B型事業(定員35名)
対象利用者 就労意欲のある障がい者(障がいの特定なし)

所在地 福井市梅野町20-5
管理者 平澤 明

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

新商品企画や販路拡大に力を入れ、利用者様の作業メニューの選択肢を増やしなが、平均目標工賃月額が40,000円以上となるように今後も取り組んでいきます。また、利用者様ご本人がワクワクするような個別支援計画を作成し実践すると共に、「足羽ワークセンターが楽しい」と利用者様が感じられるよう、活動内容の充実を図ります。



足羽サポートセンター

利用者様の「働きたい」という希望を実現し、豊かな社会生活が送れるよう個別支援計画を基にサービスを提供しています。企業での「施設外就労」も実施しており、社会体験活動にて一人ひとりが社会の一員だと感じられるよう支援しています。

Report

1 自治会改革がもたらしたもの。

当施設では自治会という、前の月の売上報告や、旅行や社会参加活動の内容を決める話し合いがあるのですが、なぜかルール違反の報告や規則順守の呼びかけで終わることが定番となっており、うれしかったことの報告が定着しませんでした。そこで楽しく過ごしていただきたいという思いで始まったのが歌とダンスの導入。初めは合唱のみでしたが、踊りだす利用者様が登場したことからダンスが加わり、やがて「あすわ祭り」で披露することが目標に。「あすわ祭り」の当日は「トリ」を務めることになり、「恥ずかしいから出ない」と言っていた利用者様も急遽加わって、大所帯でのお披露目となりました。「あすわ祭り」のフィナーレにたくさんの笑顔が添えられました。



Report

2 作業だけじゃない、仲間との大切な時間。

今年度は1名の利用者様が新しく仲間に加わりました。足羽サポートセンターは、仕事以外にも目標となる楽しみや思い出作りにも力を入れています。地域参加活動や研修旅行に加え、今年度は「年末歌合戦」「新年会」と年末年始にもたくさんの笑顔が見られました。利用者様一人ひとりに、それぞれの頑張ったことや得意なことを褒め称えた小さな表彰状。素敵な笑顔が見られ、やる気の原動力になったようです。



Report

3 命名「いちからファーム」みなさん覚えてくださいね。

農耕を始めて3年目。利用者様はもちろん、地域のお客様にもより親しみやすい名称が必要と考え、「いちからファーム」と命名しました。地域での販売もより積極的に取り組み、「トウモロコシが甘くて美味しい」「いちからファームのミニトマトが欲しい」などの声をお客様よりいただくなど、手ごたえを実感しています。また、2025年度農福連携ビジネスコンテストにて受賞することができました。事業所から発生した生ごみを有機堆肥にして使用し、大型のとうもろこしを栽培するだけにとどまらず、「ジュラコーン」というオリジナルブランド化を目指す壮大なプラン。まもなく始動予定です。



DATA

事業内容 就労継続支援B型事業(定員40名)
対象利用者 就労意欲のある障がい者(障がいの特定なし)

所在地 福井市米松2丁目6-28
管理者 渡辺 順子

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

- ・職員一人ひとりがプロ意識と実力の向上に努めて課題の解決に取り組む本当のチーム力の強化に努め、誰からも選ばれる事業所づくりに挑戦していきます。
- ・農業作業は、ビニールハウス3棟、畑2か所をフル活用し、大量生産にも対応できる体制に加え、これまで試行してきた有機堆肥づくりや規格外野菜を使った加工品の製造販売にも挑戦し、「いちからファーム」の知名度アップに取り組んでいきます。

パステル

障がいに関して、成人期以降の支援はまだ不十分であると言えます。特に見えにくい障がいについては長い目で向き合うことが大切です。関係機関等と連携しながら、ご本人と支援者との信頼関係をつくり、ご本人やご家族の思いに寄り添いながら支援しています。

Report 1 就労移行支援 利用者が4名就職!!

パステルでは、2023年1月から就労移行支援事業を開始しました。そして今年度は4名の方が一般就職の夢を実現されました。調理、事務、介護補助、清掃の現場で、日々のお仕事に取り組まれています。4名の方に続くことができるように、パステルの自立訓練事業、就労移行支援事業ご利用の皆さんも、それぞれの夢に向かって頑張っています。



Report 2 就職者の会(フレンズの会) 親睦旅行実施!!

9月28日～29日に、足羽福祉会の就労訓練を経て就職をされた皆様の会「フレンズの会」の親睦旅行が実施されました。比叡山延暦寺や忍者屋敷などを散策し、夜は楽しい宴会とゆったり温泉を満喫しました。久しぶりに一緒に過ごす仲間と、「今どうしてる?」、「仕事は順調?」など近況を話しながら、楽しいひと時となりました。仕事も一生懸命、余暇も思い切り楽しめる皆さんは頼もしいです!



Report 3 パステル地域公開講座 開催!!

3月1日に、地域公開講座を実施しました。「若者の自立を応援しようセミナー」と題して、日々自立に向けて取り組むパステルの活動の紹介、地域の皆さんとの交流を行いました。その中で利用者様による「家族や親しい人に応援してほしいこと」をテーマにしたプレゼンテーションは、「こういう話を聞きたかった」「率直な思いに感動した」と大好評でした!今後も、地域の皆様とつながって、自立の夢を叶えていくことができるパステルを目指します。



DATA

事業内容 自立訓練(生活訓練)事業(定員14名)／就労移行支援事業(定員6名)／就労定着支援事業

対象利用者 地域での自立した生活や就労を希望する障がい者(障がいの特定なし)

所在地 福井市御幸4丁目1806
管理者 吉野 拓巳

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

来年度もパステルでは地域イベントを開催する予定です。「不登校引きこもりから地域生活へ(仮)」、「自分らしく地域で暮らしたい〜どこで誰と暮らす?〜(仮)」、「自分にとって、仕事をするととは? (仮)」などのテーマについて、地域の皆様と語り合いたいと思います。また、高校生向け体験講座「就労移行ワークショップ」を開催する予定です。皆様の参加をお待ちしております。

スマイル

障がい福祉サービスの生活介護事業として、利用者様の日中活動では、事業所内での軽作業や創作活動、屋外での社会体験活動や研修旅行などさまざまな活動があります。軽度～重度まで利用者様一人ひとりの可能性を求め、意思決定の場を通してニーズに合った活動提供のお手伝いをしています。

Report 1 軽運動やミュージック・ケアで 体力づくりとリフレッシュ

月4回の軽運動と月1回のミュージック・ケアを福井市東体育館などを利用して実施しています。軽運動では広い空間で音楽に合わせて歩行したり、キャッチボールしたり元気に身体を動かします。ミュージック・ケアでは講師の先生に来ていただき、楽器や音楽に合わせて身体を動かしながら、思いの時間を過ごします。それぞれの活動では、動くことが難しい方も、周囲の雰囲気を楽しみ笑顔になる方もおられます。スマイルでは、健康維持と心身のリフレッシュを目指しています。



Report 2 地元中学生の職場体験を 受け入れて障がい理解の推進

今年は、成和中学校と足羽第一中学校より職場体験の受け入れを行いました。「障がい理解」「障がい教育」を目的に、利用者様と一緒に過ごし、職員と活動を提供することで「障がいのある方と関わる貴重な体験となった」等の感想がありました。中学生に分かりやすく障がい者支援について伝える機会となり、改めて支援に気付きを得る機会となりました。

Report 3 装飾づくりやイベント開催で 季節を感じよう

日々の生活に潤いや楽しみを見出すべく、季節を感じる活動を提供しました。8月はバーベキュー&ビールを、10月はハロウィンで目玉をモチーフにした飾りを利用者様と一緒に作り、事業所の天井に飾り賑やかにしました。イベントでは、秋には焼き芋のシュガーバターを味わい、12月は職員サンタが贈り物をお届け、1月はお汁粉提供など香りや味覚など五感で時節を感じていただきました。



Report 4 AmuAmu(アムアム)の 販売を通じて「障がい理解」を

日中活動の一環としてマット編みを利用者様に提供しています。完成したマットは「AmuAmu(アムアム)」という商品名で、地域のカフェやパン屋さんで販売しています。とても頑丈なマットで高齢者施設のおふろマットや車用座布団などさまざまな用途で使用され好評をいただいています。今後は、地元の和田地区や事業所前での販売を計画します!

DATA

事業内容 生活介護(定員数30名)

対象利用者 重度の方で余暇活動や創作活動、軽作業等を通して生きがいをつくりたい方

所在地 福井市和田東1丁目2105

管理者 恵美 淨文

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

重度や自閉症の利用者様が、日々の生活の質向上と生きがいづくりに繋がるよう、軽運動や創作活動を提供します。そこから得た利用者様の強みや弱みはアセスメントとして整理しながら、お一人おひとりにとって好きなことや得意なことを取り入れた満足度の高い支援を提供します。また、独自ブランド「AmuAmu(アムアム)」のマット販売やユニバーサルスポーツによる地域交流活動を通して、共生型のまちづくりを目指します。これらの活動は、インスタグラム等を通じて広く情報発信を行い、地区に根差した事業所づくりを目指します。

カラフル

障がい福祉サービスの生活介護事業所として、主に高齢の方や重度障がいの方の日中活動において健康でリズムある充実した生活づくりに取り組んでいます。特に、地域に向く活動に力を入れており、散歩でのあいさつや駅舎の清掃、ポッチャ交流など利用者様と地域との「笑顔」のつながりが生まれています。

Report 1 みんなが健康に笑顔で過ごせるように

カラフルは高齢の利用者様がたくさん利用されており、年を重ねるごとに今まで通りに身体が動かなくなり、怪我に繋がるリスクが増えてきます。そこで福井県スポーツ推進委員の力をお借りして「スカットボール」や「卓球バレー」などのスポーツを通じて、楽しみながら身体を動かせる機会を増やしています。利用者様からは「今度、いつするの」「またやりたい」と楽しみにされる言葉を伺っています。笑顔で楽しみながら健康維持をテーマに取り組んでいます。



Report 2 地域に根差した事業所づくりを目指し、地域と創る「共生のまちづくり」

地域と創る「共生のまちづくり」として、東藤島地区の方々と共に「ミュージックケア」による交流を行いました。当日は東藤島地区のお年寄りの方やさくらんぼ児童クラブの子どもたち、そして公民館職員とカラフル利用者様の総勢60名が参加しました。初めはお互いに緊張する様子もありましたが、ミュージックケアが始まるとお互いにハイタッチをする場面など笑顔が増えていきました。参加された方からは「年齢や障がいに関係なく、楽しく参加できました」「これからも続けてもらいたい」などの感想をいただきました。また今年一年の締めには、円山振興会の方にカラフルに来ていただき、蕎麦打ちと門松作りの見学を行いました。お蕎麦ができる様子や大きな門松の完成にみなさん興味津々でした。



Report 3 利用者様の「思い」を尊重した意思決定支援の推進

毎年一回、研修旅行を実施しており、利用者様にさまざまな経験をしていただく中で、意思決定の場面を作っています。今年はカラフルとスマイルが合同で旅行を企画、北陸新幹線の開通に多くの利用者が興味を示されたため、石川県の「トレインパーク」を選択、「かがやき」のドックを見学したり、展望エリアにて実際に通過する新幹線を間近に見たりと、白山も眺望できる絶好の撮影スポットでした。そして、食事でも肉料理と魚料理から選択していただき、喜びの音が聞かれ満喫されていました。今後もさまざまな場面で利用者様の思いをくみ取る工夫を行いながら活動の幅を広げていきます。



DATA

事業内容 生活介護、共生型通所介護（定員数30名）
対象利用者 高齢や重度の方で軽作業や創作活動を通して生きがいをつくりたい方

所在地 福井市林町62-3
管理者 恵美 淨文

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

令和4年度に開始した共生型通所介護事業は、現在6名の利用者様が利用されています。今後も介護認定を受けても「元気な間はカラフルで活動したい」という利用者様のニーズに応えていきます。また、利用者様お一人おひとりの思いに応えるべく、健康増進や、ADL能力維持向上に繋がる活動への取り組みや、ご家庭での入浴が困難な利用者様への入浴支援を提供します。そして、地域交流の継続から開かれた事業所となるよう、地域発信活動に力を入れていきます。学卒者から高齢の方まで元気に活躍できる場の提供を通して、笑顔あふれる事業所づくりを目指します。

あすわ相談支援事業所リアン

障がいのある方の就学、進路、住まい探し、地域移行への対応などについて、ご本人やご家族などの相談に応じさせていただきます。その中で、情報提供やサービスの利用に関する支援を行い、関係機関と連携して利用者様が望む暮らしの実現に向けて取り組みます。

Report 1 ご家族様・保護者様・後見人様の思いは？本心は？～気兼ねなく話し合う場の大切さ～

普段、当事業所の相談員は個別に利用者様やご家族様に対してサービスのご提案などを行っていますが「リアンってどんな業務をしているの？」「いつもする話と違った話題の相談がしたいんだけど」といったご意見を元に、今年度2回にわたってご家族様や後見人様を対象にした茶話会を実施しました。ご家族様の年代やお子様の利用サービスもさまざまな中、飲み物やお菓子を片手に、普段のご家庭での悩みや今後の不安など、さまざまな意見で盛り上がりました。「将来のお子様の暮らしや日中活動」といった日常的な相談や他の家族様と情報交換をしたり、具体的に「共同生活援助」「障害年金」「成年後見制度」等の制度や流れ等を知りたい・聞きたいといったお話もありました。私たち相談支援事業所もご家族様が気になっているテーマに応じた研修会や勉強会の開催も必要に感じています。



Report 2 利用者様の切れ目ない人生（ライフステージ）に寄り添うために ～制度や文化の違いを知る～

障がい当事者の皆さまも年齢を重ねてご高齢になってきます。私たち相談支援専門員は、利用者様のより良い暮らしや活動の提供の相談支援を行っていますが、どうしても制度の壁というものがでてきます。具体的には、65歳以降、障がいの利用者様も介護保険サービスの利用が優先となります。さまざまな課題や利用者様やご家族様が安心・安全に暮らしていくために、私たち相談員もお互いの制度を学習する（「障がい分野が高齢分野を学ぶ・知る⇄高齢分野が障がい分野を学ぶ・知る」）機会を持ちました。今年度は、障がい分野の相談員が高齢分野のケアマネジャー等に障害者総合支援法やサービスの種類、利用のプロセス等を伝え、互いの連携の大切さを改めて感じました。今後も、法人のスケールメリットを活かして、学習会や研修会を開催予定です。すべては利用者様やご家族様につながるものと考えています。



Report 3 ご家族様との生活からの独立と夢実現に向けて～グループホームの暮らしと地域生活から～

長年、ご家族様と暮らしを共にしていたAさん。自分の思いや夢はあったけれど、いつしか受身となり、食べるもの、着るもの、行きたいところ等を押し殺すようになっていました。いつしか、そんな暮らしが当たり前になっていましたが、関係機関（市役所、通所事業所等）から相談があり、Aさんにグループホームやご家族様から独立する方法もあること、見学や体験もできることを少しずつ伝えていきました。次第に「自分で衣類を購入したい」「お好み焼きを作って食べたい」等の意思表示をされるようになったAさん。関係機関と短時間の話し合いを何度も繰り返した結果、今では、単身型のグループホームに入居して、週3日は生活訓練事業所に通所されています。スーパーやコンビニで買物したり、グループホームではオンラインゲームを楽しんだりしています。地域移行は、施設や病院からの移行だけでなく、家族の元からの自立も本人の意思が整えば実現できると感じた実践でした。Aさんのこれからの夢や希望にも寄り添っていきます。



DATA

事業内容 計画相談支援／障害児相談支援／地域移行支援／地域定着支援
対象利用者 相談支援を必要とされる方（障がいの特定なし）

所在地 福井市米松2丁目6-28
管理者 渡辺 順子

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

近年、医療制度の充実や早期診断により、福祉サービスの利用開始年齢が低年齢化しています。他方、利用される方の高齢化も課題となっています。また、自然災害も各地で発生し、地域で暮らす障がい者の避難や緊急時対応等も喫緊の問題です。私たちは、直接的な支援・介護をするわけではありませんが、地域に足を運び、当事者様やご家族様、地域の皆さまや関係機関等から生のお声をいただきます。課題を課題として積み残すのではなく、改善・解決の一助となるよう、他の事業所に協力、事業拡大を求めたり、行政をはじめとした障がい者福祉計画にも声を届けられる相談支援体制を目指していきます。

足羽更生園

重度の障がいがある方の施設入所支援を中心に、安全安心の支援を提供しています。日中活動では個別の環境調整・小規模グループ化・社会参加の機会充実、暮らしの場では余暇の充実・地域移行支援など、一人ひとりの望む暮らしの実現に向け「共に」取り組んでいます。

Report 1 みんなで学ぶ 身体拘束適正化研修

令和6年度から実施が義務付けされた「虐待防止・身体拘束等適正化に関する研修」を、外部講師を招いて、法人内障がい者福祉部門12拠点、総勢75名が一同に会し、集合研修として行いました。事前に動画視聴をした上で研修会に参加し、グループワークを通して学びを深めるとともに、活発な意見交換を行いました。拠点を越えた学びの輪の中で、身体拘束に関し、新たな気づきを得る機会、自身の考え方を振り返る機会として有益な研修の場となりました。



Report 2 利用者様の想いを 引き出すためにまずは知ろう!!

昨年、クローズアップされている「意思決定支援」。当園でも長年利用者様の想いを引き出そうと取り組んでいる中で、令和6年度は改めて利用者様を「知る」ことに重点を置き、支援職全員で、利用者様の過去も含めたライフストーリーに関する情報収集と情報の分類を行いました。その作業を通し、私たちが知らなかった利用者様の姿も垣間見え、現在の支援が利用者様の過去の行動に基づいた職員間での検討をもとに行われていることの再認識ができました。今回の「私のことを知って」への取り組みを「私の想いをきいて」に繋げ、利用者様像を職員間で共有しながら、利用者様個々の「生きる」に寄り添っていきます。



Report 3 利用者様の思いを形にした 日帰り旅行

令和6年度は例年行われてきたイベントに関しても、意思決定支援の機会にできないかと考え、旅行の企画段階から利用者様の希望を取り入れ、個々が選んだ行程ごとの班編成を組みました。旅行を楽しんでいただく中で、旅行先だからこそ見られる行動や利用者様の嗜好、初めての体験での様子などの情報を細かく収集し、職員間での共有に繋げました。利用者様の「思い」に沿ったプランニングの旅行の中で利用者様の弾けるような笑顔が印象的でした。



DATA

事業内容	障がい者支援施設	対象利用者	施設支援を必要とする障がい者（障がいの特定なし）
	①施設入所支援（定員60名）②生活介護事業（定員60名）③短期入所支援（定員4名）④日中一時支援（定員5名）	所在地 管理者	福井市宿布町19-46-1 嶋田 富士男

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

重度障がい者の最後の砦として、強度行動障害のある方の豊かな暮らし・職員の支援力向上を目指し、スーパービジョンの強化を図り、「根拠のある支援」について考え、実践することで職員誰もが「支援の意味を説明」できるよう育成に取り組めます。

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3

障がいの軽重にかかわらず「地域社会の中で自分らしい暮らしがしたい」という思いの実現のため整備を行ってきました。住まいのある地域社会との交流や社会体験、日中を過ごされる事業所等との連携、充実した生活支援を通して、一人ひとりにとってやすらぎのある「自分の家」となるよう努めています。

あすわ第1

地域の一員として暮らすということ

現在のグループホームは街中にあり、地域資源を使い、地域の住人として当たり前の生活することを目指しています。おかげさまで地域の方々に温かく迎えていただき、楽しく生活しております。今もお世話になることは多いですが、グループホームとしてできることを考え取り組んでいます。町内の散歩＆ゴミ拾いもその活動の一つです。町内の方に会って「ご苦労さん、ありがとう」「今年も祭りに来てね」等声をかけていただきます。町内の若い世代として、まだまだできることがあると思うので、障がい者ではなく地域住人として活動の幅を広げていきたいです。



あすわ第2

景品ゲット！

地域の秋祭りに参加した3人組です。地域の皆さんに勧められておにぎりを食べたりビールを飲んでほろ酔い気分になっているところでガラガラ抽選を行いました。ナント！祭り参加者の中で一番に当たりを引いてしまいました！どうしていいかわからない表情ですが、コーヒーのドリップ詰め合わせをゲットしました。グループホームに戻ると「このコーヒーは俺が当てたんや！コーヒーやぞ！みんなで飲もう！」と言わんばかりに得意げに見せて、みんなでコーヒータイムを満喫しました。食堂にコーヒーの良い香りが漂い、いい時間が過ごせました。



あすわ第3

地域と共に
さまざまな活動への参加

4か所のグループホームそれぞれの地域で行われている清掃活動や防災訓練などの地域行事に利用者様と共に参加を重ねてきました。これまではこちらから出向いて情報を集め、参加させていただくことばかりでしたが、最近では地域の方々から、祭りやバーベキュー大会などのお誘いを受けることもあり、利用者様も楽しんで参加しています。これからもどんどん地域に出向き、さらに良い関係を築いていきます。



DATA

事業内容	共同生活援助…3事業所（グループホーム17か所） ○あすわ第1…グループホーム4か所（総定員37名） ○あすわ第2…グループホーム8か所（総定員62名） ○あすわ第3…グループホーム5か所（総定員39名）	対象利用者 所在地 管理者	地域で自分らしく暮らしたい障がい者（障がいの特定なし） 福井市榎野町20-5（代表所在地） あすわ第1…藤原 行順 あすわ第2…吉村 宜利子 あすわ第3…荒川 待子
	短期入所 ○たんぼ短期入所（定員2名） ○ひまわり短期入所（定員2名）		

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

- ・地域連携推進会議を実施し、地域とのつながりをより一層深めていきます。
- ・利用者様の重度、高齢化に対応していくため、高齢部門との連携や、強度行動障害への学びを強化し、利用者様に合った暮らしの場を整えていきます。
- ・利用者様の一人ひとりの思いを大切に、わくわくする日々を共に考えていきます。

愛全園

出かけて安心、過ごして満足、相談にも親切、丁寧なサービスの提供を心がけています。日常の介護はもちろん、健康への看護とおいしい食事には特に気を配っています。さらにこれからは、在宅からご利用の方、入居されている方一人ひとりの状態をしっかり見て、その方に適した生活活動の向上への介護に取り組みます。

Report

1 楽しみの時間

今年度から移動販売が来園しています。毎月移動販売が来る日を待ち望んでいた利用者様は、お菓子類などのおやつから、果物や肉や魚などの生鮮食料品をじっくり品定めしながら買い物を楽しんでいます。「これはお父さんのお酒のおつまみにしよう」と笑顔で話しながら買い物をされる利用者様もいます。これまでにはなかった楽しみの時間ができました。



Report

2 復活

新型コロナウイルスへの感染対策のため中止されていた愛全園祭が、5年ぶりに開催されました。感染症への対策は依然継続していますが、関係職員が企画準備して、当日は大勢の利用者様が参加され、地域のボランティアの方々や職員の出し物を見ながら、利用者様同士楽しい時間を過ごしました。



Report

3 安らぎの時間

啓蒙地区にある真宗大谷派託願寺のご住職牧野様に、今年度より2か月に1度愛全園で法話を行っていただくことになりました。利用者様を含め職員に対して季節や暦に沿った仏様の教話を話されます。分かりやすく親しみやすい話の内容に、参加される利用者様、職員はうなずいたり、真剣に話に耳を傾け貴重なひと時を過ごします。



DATA

事業内容	ユニット型介護老人福祉施設(定員60名)／従来型介護老人福祉施設(定員30名)／短期入所生活介護(定員35名)／通所介護(定員25名)／居宅介護支援事業所／認知症対応型共同生活介護(定員9名)	対象利用者	65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
		所在地	福井市丸山町40-7
		管理者	高村 昌裕

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症が5類となった後に、愛全園ではクラスター感染が発生しました。依然家族の面会や、ボランティアや見学、実習など外部との接触に関して制限をお願いしていますが、一律にすべてを制限をするのではなく、日頃からの感染対策を継続、工夫しながら、利用者様が笑顔で喜んで暮らせることを第一に考え支援していきます。

足羽利生苑

当苑は、特に認知症高齢者介護を使命としており、満足度の高いサービス提供で介護にかかわっています。安全で親しみやすく家庭的な雰囲気を作り出し、親切丁寧、敬愛の念を持ち、利用者様の笑顔や残された能力を引き出し、安心できる暮らしを支援していきます。

Report

1 「いこ憩サロン」再開!!

「自治会型デイホーム」や「おしゃべりカフェ」に加え、より多くの地域高齢者の方がより多く集いながら介護予防の実現をめざす場として、これまでコロナ禍で約5年実施してこなかった「いこ憩サロン」を令和7年度の定期再開につなげていくための準備段階として、皆様からの意見の集約や実施方法等関係者の協力をいただいて令和6年度末に総勢30名の参加を得て再開しました。町内ごとにリフトカーにての送迎、リハビリ機器を使用しての運動、珈琲やお茶菓子を楽しみながらのお話し等に花が咲いていました。また、身体や生活上の困りごとや介護についての相談なども行いました。「今度いつサロンあるの?」「また来たい」と次の開催への期待も多く寄せられ大盛況でした。今後、地域に出向く機会を増やしていくと共に「気軽に・楽しく・自由に」参加できる健康志向カフェを皆さまと一緒に作り上げていきたいと思っています。



Report

2 「行事交流」再開!!

今年度からさまざまな行事を復活しました!!長寿を祝う会、年忘れ会の利用者様とご家族様と一緒に行事交流を楽しむ中で一層の絆を深めることができました。また、あすわ祭りは、10月の過ごしやすいく候と屋外で障がい者福祉事業所の利用者様との交流や地域の方と一緒に催し物を見て、美味しい物を食べて交流ができ、大満足。行事交流では一緒に過ごす嬉しそうな表情や、普段と違った一面を見ているとこちらまで嬉しくなりました。ユニットでのお楽しみ会や余暇活動も徐々に増え、コロナ禍前に戻りつつあります。まだまだ、感染対策に気は抜けませんが、これからもできる範囲で生活に張りの持てる楽しみを見つけていきたいと思います。



Report

3 不審者対応訓練復活で防災対策の取り組みを強化!!

昨年度に引き続き炊き出し訓練を実施し、今年度は数年ぶりに不審者対応も実施しました。不審者対応では実際に警察官の方に犯人役をしてもらい、足羽利生苑の中に乱入するという設定でしたが、事前に分かっていることでも実際に対応するとうろたえることもあり。その後は護身術や、さすまたの正しい使い方、110番の電話連絡の対応の仕方など、日頃の訓練の重要性を学びました。



DATA

事業内容	介護老人福祉施設(定員59名)※介護予防／短期入所生活介護(定員15名)／通所介護(定員20名)※福井市日常生活総合事業通所型A型・通所型予防給付相当含む／地域密着型介護老人福祉施設(定員18名)※介護予防／認知症対応型通所介護(定員12名)／居宅介護支援事業	対象利用者	要支援・要介護高齢者
		所在地	福井市柊野町20-7
		管理者	山本 耕右

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されるように、地域住民と共に災害時の対応を考え、福祉避難所の役割を発揮できる対応訓練を行います。



グループホーム美山

「美山で育ち、美山で暮らす…」利用者様の想いに応えるため、2つの事業で地域での生活を支援しています。特に「地域と共に」を念頭に置き、「地域に出向く」「地域を招く」の双方向の交わりを大事にし、「地域密着型施設」として地域に信頼される施設を目指しています。

Report

1 その方の足跡に出会う

島根県出雲市に利用者様と職員同伴で行ってきました。福井では独居生活をされていて身寄りがない中、生まれ故郷の親族である方と今後について話し合いを行いました。久しぶりの再会でしたが、親族の方は温かくお出迎えしていただきました。行程は車での長距離移動でしたが、利用者様は疲れを言われることもなく、往時の記憶が鮮明に蘇り懐かしんでおられました。職員にとってもその方を知るといふ、利用者様の新たな一面に触れられた貴重な旅行になりました。



Report

2 利用者様と共に職員も楽しむ

10月27日美山そば祭りと同時に開催の美山地区文化祭に利用者様と鑑賞に行きました。文化祭の出し物としてグループホーム美山職員4名による太鼓演奏を行いました。各自、時間を見つけてはコツコツと練習に勤しみ、本番では緊張感が漂う中、堂々たる演奏で観客を魅了していました。文化祭鑑賞後はそば祭り会場でおろしそばを堪能し楽しいひとときを過ごせました。グループホーム美山のモットーである「利用者様と共に職員も楽しむ」を今回も実現できました。



Report

3 地域の方と共に年末大掃除

12月28日グループホーム美山で年末の大掃除を行いました。5年ぶりにご家族や地域の方を招き、総勢10名に来ていただきました。コロナ禍で事業所内へ外部の方が入れられることはほとんどなく、久しぶりに利用者様と共に掃除をしたり、生活の様子を知っていただいたりできました。「私も今後お世話になるかもしれん。直接様子を見られて良かったわ」と言われる地域の方もいらっしゃいました。



DATA

事業内容 認知症対応型共同生活介護(定員9名)／小規模多機能型居宅介護事業所(定員29名)／その他緊急時対応短期利用(各1名)／共生型生活介護・短期入所

対象利用者 要支援・要介護高齢者
所在地 福井市美山町6-1

管理者 蟻塚 光男

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

グループホーム美山は地域に根ざした、地域に開かれた施設です。利用者様一人ひとりが地域住民であり、地域とのつながりを大事にしています。職員もまた同様で、さまざまな地域課題を自分ごととして捉え、取り組みを行っています。今後も、さまざまな折に、地域に出向く、地域を招く、地域を創る、を利用者様と共に行っていきます。

福井大東包括支援センター

(ほやねっと大東)

地域にお住まいの高齢者様が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、さまざまなお困りごとに対して「主任ケアマネジャー」「社会福祉士」「保健師」などが中心となって、互いに連携をとりながら「チーム」として総合的に支援を行っています。

Report

1 認知症の人にやさしいまちづくり

福井市では毎年9月を認知症理解普及月間と題して、認知症の理解を促進する活動をしています。福井市の「認知症の人にやさしいお店」に登録されているそよら福井開発店様、平和堂フレンドマート開発店様と協同で、メイト・サポーターの協力を得てイベントを開催しました。ロバ隊長グッズ作りに健康チェックなど、お子様から高齢者まで幅広い世代にご参加いただき、認知症について知るきっかけとなりました。「認知症の人にやさしいお店」と連携を図りながら、認知症にやさしい地域づくりを行っていきます。



Report

2 地域の健康課題への働きかけ

東藤島地区では、自治会型デイホーム全会場を対象に介護予防教室を行いました。市の健診データより健康課題を抽出し、高血圧の人の割合が高いという結果が得られたため、今回は高血圧の予防というテーマで行いました。参加者様と、生活習慣改善や減塩への取り組みなど対話形式で進めていき、高血圧予防への理解を深めていただきました。



Report

3 ためになる終活 ～自分らしい人生を歩むために～

在宅ケア講習会を岡保地区で開催しました。福井県薬剤師会会長／セムイ調剤薬局薬剤師・浄土宗僧侶である森中裕信先生に「信仰心をととして、老後をかんがえる」というテーマでご講演いただきました。参加者の皆様に福井県版エンディングノート「つぐみ」をお配りしました。これまでエンディングノートの筆が進まなかった方も、少しずつ書いてみようという意見も聞かれ、エンディングノートの必要性の理解が深まりました。



DATA

事業内容 地域包括支援事業／介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
対象利用者 地域住民 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)および40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)

所在地 福井市丸山町40-7 愛全園3F
管理者 北川 理恵

令和7年4月1日現在

Next Step 次年度に向けた取り組み

「認知症の人にやさしいお店」が増えるよう、新たなお店に働きかけます。今年度作成した「大東版認知症ケアパス」も活用し、地域の高齢者がその人らしい生活が継続できるように支援します。また、住民・関係機関と連携して、地域の課題に取り組んでいきます。